

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

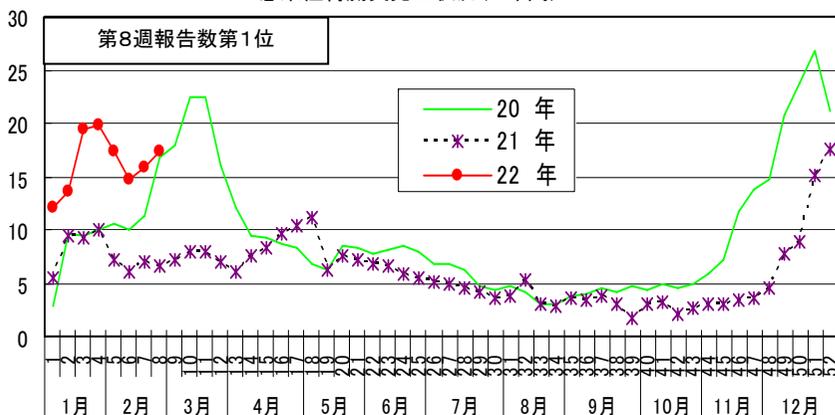


KAWASAKI CITY

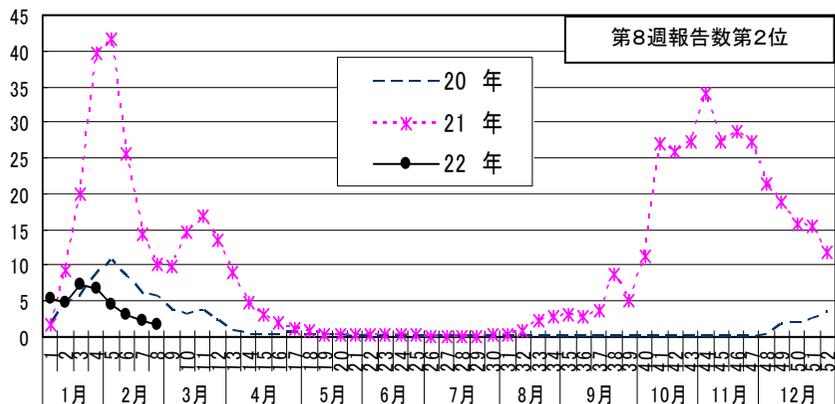
平成22年2月22日（月）～2月28日（日）〔平成22年第8週〕の感染症発生状況

第8週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) 水痘となっています。
 感染性胃腸炎が定点あたり17.28人と患者報告数は増加しており、区別では高津区と多摩区で警報基準値である定点あたり20を超えています。また、過去10年の第8週をみると、今年がもっとも多い定点あたりの報告数となっております。
 インフルエンザは、定点あたり1.60人と5週連続で患者数が減少しております。過去10年の第8週をみると今年がもっとも少ない定点あたりの報告数となっております。例年の報告数とは異なった動向を示していますので、今後の動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



インフルエンザ発生状況(3年間)



麻しん(はしか)にならない、させない！！

3月1日(月)～3月7日(日)は『子ども予防接種週間』です。

第8週に、川崎市内医療機関から麻しん(はしか)の発生の届出がありました。麻しんは、例年、主に春から初夏にかけて流行していますので、今後麻しんの予防に努める必要があります。

どんなウイルス！？

麻疹ウイルスによっておこる感染症で、人から人へ感染します。感染経路としては空気感染(飛沫核感染)のほか、飛沫感染や接触感染など様々な経路があります。感染力はきわめて強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発病者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています。(インフルエンザでは1～2人)。

どんな症状！？

麻疹ウイルスの感染後、10～12日間の潜伏期ののち熱や咳などの症状で発症します。38℃前後の熱が2～4日間続き、倦怠感、上気道炎症状(咳、鼻みず、くしゃみなど)と結膜炎症状が現れて次第に強くなります。発疹が現われる1～2日前ごろに頬粘膜(口のなかの頬の裏側)にやや隆起した1mm程度の小さな白色の小さな斑点(コプリック斑)が出現します。その後、熱が1℃程度下がり、その後半日くらいのうちに、再び高熱(多くは39℃以上)が出るとともに、発疹が出現します。発疹は耳後部、頸部、前額部から始まり、翌日には顔面、体幹部、上腕におよび、2日後には四肢末端にまでおよびます。発疹が全身に広がるまで、高熱(39.5℃以上)が続きます。発疹出現後3～4日間続いた熱は解熱し、全身状態、元気が回復し、症状も次第に軽快してきます。

予防方法は！？

麻疹は、麻疹ウイルスの直径は100～250nmで非常に小さく、飛沫核の状態です空中を浮遊し、それを吸い込むことで感染しますので、マスクでの予防は難しくなります。予防方法は、ワクチン接種によって麻疹に対する免疫をあらかじめ獲得しておくことです。

4月からの入園、入学に備えて、必要な予防接種をすませて、病気にかからないようにしましょう。

この「子ども予防接種週間」中は、通常の診察時間に接種を受けられない方のために、土曜日、日曜日に予防接種を実施している医療機関もありますので、この機会にぜひ接種しましょう。詳しくは健康増進課のホームページをご覧ください。
<http://www.city.kawasaki.jp/35/35sippei/home/yosetu/index.htm>

